

質問回答

平成 26 年 1 月 20 日

「ラオス国国立養殖漁業研究開発センター整備計画準備調査」

(公示日 : 平成 26 年 1 月 8 日) について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通 番 号	当該頁項目	質問	回答
1	業務指示書 5 頁(12) 1. 現地調査実施スケジュール等 について	<p>第 1 次現地調査の実施は、4 月 10 日～4 月 20 日の期間を避けるよう指示があります。</p> <p>一方、13 頁の調査実施スケジュール表では、同期間を跨ぐ形での第 1 次現地調査の実施が想定されています。3 月下旬から現地調査を実施した場合、第 1 次調査の期間を短く取らざるを得ず、TOR 通りに業務を遂行することは実現性に欠けると考えられます。</p> <p>このため第 1 次現地調査期間を短縮し、第 2 次現地調査を本格調査と位置づけ、TOR を組み替えて提案することは可能でしょうか。</p> <p>あるいは、現地調査を 4 月 20 日以降の実施に一本化する形で提案することは可能でしょうか。</p>	<p>第 1 次現地調査は、4 月に予定されるラオス側休日をはさむ形で 2 回の渡航に分けることを想定していますが、休日後の 2 回目の渡航の際には、JICA から総括および協力計画団員を派遣し、先方とのミニッツ協議に基づき本調査の範囲を確定させる計画です。</p> <p>ラオス側の要請内容のうち、新規の建物・施設の建設については、これらを活用する先方の具体的な事業計画やその体制等の確認を行った上で、本調査における設計・積算・施工計画等の対象に含めるか検討する方針であるため、上記のミニッツ協議時までにはこれらを判断し、協議するための情報整理しておく必要があると考えます。したがって、ラオス休日前の第 1 回目の渡航末時点で一旦関連情報を分析し、ラオス側休日を活用する形で本邦にて対処を検討し、第 2 回目の渡航時における先方とのミニッツ協議結果に基づき調査を継続することを想定しています。</p> <p>なお、第 1 次現地調査は上記を背景として休日をまたぐ工程を想定しますが、本調査の目的・業務内容を遂行する上で、より効率的な方法がある場合には、業務量目安を参考にプロポ</p>

			一ザルにて提案することは妨げません。
2	自然条件調査仕様書(別紙)1頁 2. 地形測量について	地形測量の調査数量として、50m×50m×2 か所の実施が見込まれています。2 か所とは、具体的にどの部分を想定しているのか、ご教示ください。	地形測量の対象は、建物の建設、取水施設および排水施設の建設、養殖池等関連施設であり、このうちの 2 か所での実施を想定していますが具体的な場所は現時点では特定されておりません。